

第4章 調査地区の問題点及び課題の整理

これまでに整理した内容を踏まえ、調査地区のバリアフリー上の主要な問題点や課題を以下に整理します。

課題1：吉原駅について、バリアフリー化と交通結節機能の強化を一体的・総合的に行うことが必要です。

吉原駅には、JR東海道本線、岳南鉄道及び富士急静岡バスなど多くの公共交通機関が乗り入れており、地域並びに富士市における重要な交通結節点として機能しています。

しかしながら、吉原駅を構成するJR吉原駅と岳南鉄道吉原駅は互いに離れて立地していることや、駅舎構造がそれぞれ異なっている（JR吉原駅は橋上駅、岳南鉄道吉原駅は地上駅）こと、またエレベーターやエスカレーターなどの昇降設備が設置されていないことなどの理由から、高齢者や障害者はもちろん、健常者も含め駅利用の利便性が低下していることが問題となっています。

したがって、吉原駅については駅舎のバリアフリー化と交通結節点としての機能の強化を一体的かつ総合的に行うことが必要です。特に、JR吉原駅は1日あたりの平均乗降客数が5,000人を超えていることから、バリアフリー新法上の特定旅客施設として位置づけられる駅であり、バリアフリー化の一層の推進が求められています。

課題2：吉原駅周辺空間のバリアフリー化が必要です。

吉原駅周辺の道路には歩道が設置されていなかったり、設置されていても段差や勾配が生じていたりして、安全な歩行者空間が確保されていない状況にあります。特に視覚障害者等に対する駅舎への明確な誘導措置は不十分となっています。

また、JR吉原駅北口には交通広場として機能している空間があり、バスやタクシーのほか、送迎を目的とした一般乗用車の乗り入れも多く見られます。しかしながら、広場内においては、これらの車両の動線や停車位置が明確になっていないことから、駅利用者等と車両が交錯し、交通事故が発生するおそれがあります。

加えて、JR吉原駅北口には駅利用者のための自転車駐車場も設置されていますが、駐車場からあふれた自転車や原動機付自転車が歩行者のための通路をふさいでしまっているなどの問題点も指摘されています。

以上のことから、吉原駅のみならず、駅周辺の空間についてもバリアフリー化を行い、安全性と利便性の向上を図っていく必要があります。

課題3：吉原本町駅及び周辺市街地のバリアフリー化が必要です。

吉原本町駅の1日あたりの平均乗降客数は5,000人に満たないものの、岳南鉄道吉原駅に次いで利用者数が多い駅となっています。

また、吉原本町駅周辺の市街地は富士市の中心市街地の一部を形成しており、ここには旧東海道筋に多くの商業・業務施設が立地して商店街を形成しているほか、聖隷富士病院を始めとする多くの公共公益施設や、富士急静岡バスのバスターミナルとして機能している吉原中央駅が立地しているなど、高齢者や障害者の方々はもちろん、健常者も含め多くの市民の都市活動の場となっています。

以上のことから、吉原本町駅や駅周辺の市街地については、多くの市民が集まり、交流する場としてふさわしい都市空間形成が求められており、安全性と利便性の向上を図るためのバリアフリー化が必要です。

課題4：バリアフリーに関する周知・啓発活動を積極的に行っていく必要があります。

高齢者や障害者の方々が、安全かつ快適に駅や道路等の施設を利用するためには、施設の整備水準を高めるなどハード面の対策に加え、高齢者や障害者の方々に対して、公共交通事業者や施設管理者の配慮、また周囲の健常者の協力などソフト面の対策も必要不可欠であると言えます。

そのためには、バリアフリーに関する周知活動や施設利用時のマナー向上の啓発活動を積極的に行っていく必要があります。